

1 主題名 明るく生きる A(2) 正直、誠実

2 ねらいと教材

- (1) ねらい どのような状況であっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。
 (2) 教材名 「手品師」(東京書籍「新訂 新しい道徳 6」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、小学校学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容項目Aの「主として自分自身に関すること」の(2)「誠実に明るい心で生活すること。」をねらいとしたものである。これは、中学年の内容項目「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」を受け、さらに中学校の内容項目A(1)へとつながっていくものである。この段階においては、自分自身に対する誠実さがより一層求められる。誠実さが自分の内面を満たすだけでなく、他の人の受け止めに過度に意識することなく、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けても発揮されるようにすることが必要である。そのことが、より明るい心となって行動にも表れ、真面目さを前向きに受け止めた生活を大切にすることで自己を向上させることや自信にもつながっていく。

6学年になると、児童は学校の中心となり、みんなと楽しく生活できる一方で、よくないことと知りつつも自分の意に反して周囲に流されてしまうことや傍観者として過ごしてしまう傾向も見られる。そのため、これまでの自分自身の経験を振り返り、どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るく伸び伸びとした生活をしようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い

(調査日 令和4年9月16日 調査人数34人)

誠実な人とは、どういう人ですか。			
・優しい(思いやりがある) 11人	・正直 4人	・真面目 4人	・頭がいい 3人
・きちんとしている 3人	・規則正しい 2人	・しっかりしている 2人	
・大人っぽい 1人	・信用できる 1人	・心豊かな 1人	・ルールを守っている 1人
・礼儀正しい 1人	・尊敬できる 1人	・正しいことをする 1人	
・昔からいる 1人	・何事にも真っ直ぐに取り組む 1人	・誰にでも平等 1人	
自分の気持ちに「正直でいること」「うそをつかないこと」は大切だと思いますか。			
なぜ、そう思ったのですか。			
はい・・・32人			
【理由】			
・正直でいることがよいと思ったから 4人			
・信頼されるから 4人			
・嫌われたくないから 2人			
・うそをつくことはよくないと教わったから 2人			
・後悔したくないから 2人			
・うそをつくのはよくないから 2人			
・相手を嫌な気持ちにさせたくないから 2人			
・うそばかりの人生になりたくないから 1人			
・しっかり意見を言えるから 1人			
・前向きになれるから 1人			
いいえ・・・2人			
【理由】			
・大事なうそもあるから			
・正直な気持ちで言うと相手を傷つけてしまうから			

本学級の児童は明るく素直で、何事にも一生懸命取り組むことができる。また、学習や生活の中で友達と協力し合う様子も多く見られる。しかし、友達がよくないことをやっても、周囲に流されて同調してしまったり、傍観者として見過ごしてしまったりするところもある。

実態調査の結果を見ると、「誠実な人とは、どういう人ですか。」の質問項目には、「優しい人、正直な人、真面目な人」などと答える児童が多く、他人に優しく、うそをつかない正直な人というイメージを持っていることが分かる。また、「自分の気持ちに『正直でいること』『うそをつかないこと』は大切だと思いますか。」の質問項目には、32名が「大切だ」と答えていて、ほとんどの児童が、誠実に生活することの大切さを理解していることが分かる。これらの結果からも、この発達段階の児童にとっては、誠実な人や誠実な行動のイメージはもっているが、実際に行動に移すには難しい実態があることが分かった。そこで、教材文に起きる問題を話し合わせ、どのような状況であっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする意欲を育てたいと考えた。

(3) 教材について

本教材は、大劇場に立つことを夢見る売れない手品師の話である。手品師は、ある日出会った一人の男の手品を励まそうと、「明日も来る。」という約束をする。その晩、友人から電話があり、「大劇場に出られるチャンスだぞ。」と誘いを受ける。迷いに迷った末、手品師は友人の誘いをきっぱりと断り、男の子との約束を守るという決断をする。翌日、手品師はたった一人のお客の前で、次々と素晴らしい手品を演じる。「男の子との約束を守ること」と「大劇場に立つ夢を叶えること」という二つの価値の間で、児童も一緒に葛藤しながら、「誠実」について考えることができる教材である。この教材の特性を生かし、手品師が約束を守る方を選んだ理由を考えることで、「誠実」について自分の考えを広げたり深めたりしながら、常に誠実に行動し、明るく伸び伸びとした生活をしようとする心情を育てたい。

(4) 指導観

導入では、事前にとったアンケートの結果を提示し、「誠実」について考えるという課題意識をもてるようにする。展開では、教材の前半部分までを読み、手品師の人物像や背景を確認し、大劇場に出る

ことが大きなチャンスであることの共通意識を図ったり、男の子と約束した際の気持ちを確認したりする。そして、「自分が手品師だったらどうするか」を考え、ICT機器で「ポジショニング」機能を活用し、「大劇場に出たい」と「男の子との約束を守りたい」という2つの立場で、自分がどちらの立場の考えなのかを入力し、それぞれの立場に立って意見を交換し合う。次に、教材の後半部分を読み、「どのような行動をとることが誠実な行動といえるのか」について考え、相手のためという視点だけでなく、手品師の内面にある誠実さにも気付かせながら、多面的・多角的に話し合えるようにする。終末では、ポジショニング機能で自分の立ち位置を再入力し、自分自身の内面の変化や他者の変化に気付いたりしながら、どのような状況であっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

4 本時の指導

(1) 準備・資料

ワークシート（教材）、教科書、道德ノート、場面絵、タブレット、電子黒板

(2) 展開

	主な学習活動と発問	予想される児童の反応	指導の手立て、評価（評価方法）
導入 5分	1 課題を提示し、誠実について考える。 誠実について、考えよう。	・うそをつかないこと。 ・正直に言うこと。 ・真面目。	・事前アンケートの結果を提示し、「誠実」について考えるという課題意識をもてるようにする。
展開 30分	2 資料「手品師」を読み、話し合う。 ○「自分が手品師だったら、どうするだろうか。」 「どのような行動をとることが誠実な行動といえるのだろうか。」	【大劇場に出たい】 ・自分の夢を叶えたい。 ・最後のチャンスかもしれない。 ・暮らすにはお金が必要。 ・男の子も連れて行く。 【男の子との約束を守りたい】 ・約束したのだから守らないと。 ・男の子が悲しむ。 ・男の子が待っているから。 ・代わりがないから。 ・約束を守ることが誠実な行動である。 ・自分の気持ちにうそをついても、他人にうそをついたら誠実とはいえない。 ・相手の気持ちを考えて、自分が正しいと思うことを行うことが誠実である。	・ワークシートで教材の前半部分だけを読むことで、教材の結末にとらわれずに、自分の考えをもてるようにする。 ・場面絵を提示し、登場人物の人物像や背景を視覚的に捉えやすくする。 ・タブレットで「ポジショニング」機能を活用し、自分や友達の立場を可視化し、それぞれの立場の考えを整理しながら意見を出し合えるようにする。 ・「男の子を連れて行く」などの方法論も許容し、方法論のみにそれていかないようにする。 ・周りの友達との意見交換や話し合いを入れ、各自が意見を出しやすい雰囲気をつくる。 ・手品師の視点だけではなく、男の子や友人の視点で多面的に状況を捉えながら考えられるよう多角的な思考を促す。 ・教科書で教材の後半部分を読み、「手品師の行動は、どんなところが誠実なのか」と発問し、「誠実な行動」について考えられるようにする。 ・「大劇場に行ってはだめだったのだろうか。」と揺さぶり、「約束を守った」という結果にのみ価値があるのではなく、真摯に悩んだことに価値があることに気付かせ、「誠実」という言葉に結び付ける。 ・「ポジショニング」機能で自分の立ち位置を再入力し、自分自身の内面の変化や他者の変化に気付けるようにする。
終末 10分	3 学習を振り返り、これからの生活について考える。 ○「『誠実』についてどんなことを考えたか。」 4 教師の説話を聞く。	・自分が納得いくまで考えて答えを出すことが「誠実」だと思った。 ・約束を守ったり、自分に正直でいたりすることが「誠実」だと分かった。	・導入で活用したアンケートを再度提示することで、「誠実」に対する考えが深まったことを確認できるようにする。 (評)常に誠実に行動し、明るい生活をしようと考えている。 (ノート・発表) ・誠実に生活することは、明るく自信をもって生活することにつながるということを伝える。